

Q.48

弦の素材は何で、どうやって作るんですか？

A-----
伝統的にはガット（羊の腸）を使ってきました。ガットを芯に金属の細い線を巻いて作ります。現在でもガット弦は愛用されていますが、芯に化学繊維、スチールを使ったものが多く普及しています。

Q.49

ヴァイオリン(弦楽器)の材料は何ですか？

A-----
基本的には木。響板に使う表板は、「スプルース」と呼ばれる針葉樹を使う場合がほとんどです。裏板などは、例えばヴァイオリンの場合、メープル材＝カエデの木を使うのが、現代では一般的になっています。
杉や他の針葉樹で作ろうとした人もいますが、実際にはうまくいかなかった。木の音響特性的なものでしょうが、ヨーロッパのスプルースが使われています。アメリカ合衆国では違う種類のスプルースを使っている例もあり、その方が音響特性が良いという製作者もいます。軽くてしなやか、というのが必要とされる特徴です。

今さら聞けない
弦楽器

Q&A100



Q.53

ヴァイオリン人口が一番多い国は？

A-----
実際に数字が出ないのでわかりませんが、貿易統計からすればアメリカ合衆国。第2位は相変わらず日本です。ただし、中国が国内需要で回っていると考え、人口の割合からすれば中国かもしれません。貿易統計には上がってこないですから。アジア系の人の演奏人口が増えていることは確かなのです。



この項目の回答者

篠崎 渡(しのざき・わたる)

ミラノ市立弦楽器製作学校で弓奏弦楽器製作、修復コースのディプロマを取得。ミラノのイウス工房、モデナのフリニャーニ工房で研鑽を積み 2010 年より埼玉県比企郡にて篠崎バイオリン工房を営む。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの製作以外に音楽史、楽器史の研究、楽器製作用材木や製作マテリアルの販売を行っている。

Q.46

左利き用の弦楽器はありますか？

A-----
あります。ただ、日本では矯正教育が通常のように、左利きで演奏している人を見たことはありません。以前に、メルボルンのオケでオーケストラに2人、左利きの人がブルトを組んで並んでおり、演奏していたという話を聞いたことがあります。通常、作っているところは無いのですが、左右逆にした楽器は作れるので、必要なら楽器製作者に相談してみてください。

Q.47

ギターではオリジナルモデルで遊んでいる人がいますが、変わった形のヴァイオリンやヴィオラがあるのでしょうか？

A-----
ヴァイオリンやチェロは特殊な形のものがあります。シャノー型＝コーナーが無いものが知られていますね。ヴィオラは、ヴィオラダモーレに近い形のものでアメリカ在住の日本人製作者が作っている特殊な形の窪みがあるヴィオラを愛奏している演奏家もいます。肩のところがくぼんでいて、ハイポジションが取りやすくなっているヴィオラもあります。
実際は、製作者や注文主のニーズやの遊び心で作るものが多いです。ヴァイオリンについても、ポップス系の人に受け入れられやすいようです。
それとは別に、必要に応じた五弦楽器も見かけます。これはヴァイオリンに下のC弦を足すものと、ヴィオラにE弦を足すものでは考え方がまったく異なります。五弦は演奏も難しいので、弾ける人は限られてくるのではないかと思います。

Q.50

Qベグ(糸巻)が回らなくなったらどうすればいい？

A-----
ベグが回らなくなる大きな理由は二つあります。一つは、歪んだり変形はしていないが、固くなっている場合。もう一つは、木の変形、つまりベグホールやベグが変形してしまっ、回りづらくなっているケースです。
穴とベグが合っている場合は、乾燥している時期から湿っていく時期に木が膨らんで、摩擦がきつくなって動かないケース。逆に湿度の高いシーズンから低い季節になると、緩んで弦がべろんとなってしまう。この場合は、「ベグソーブ」を使って、ベグをもう一度入れ直してあげれば解決する。「ベグソーブ」は、クレヨンのように見えるが柔らかな素材のもので、市販されています。適度な摩擦を作ってあげることができ使いやすいため常備しておくといでしょう。
ただこれが原因のものは2割くらいです。むしろ多いのは、木が変形してきているケース。時間が経てば、ベグの軸が変形したり楕円になったりすることがある。楽器のベグボックスも変形することがあります。この場合は、穴を修正したり開け直します。
もともと穴の配置が悪く弦に他の弦が干渉するケースもあります。その場合は、それを変えるだけでも音が伸びるようになりますし、チューニングがしやすくなります。まずは木で穴を埋め、もう一度開ける作業です。上手くやれば跡もほとんどわからない。ベグの配置は紙一枚くらいの微妙な位置関係なので、正しく設定することが肝心です。調弦が楽にできるかどうかは上達にも大きな影響がありますので、是非一度、チェックした方がいいですね。

Q.52

弦楽器(中でもヴァイオリン)が一番多く作られている国は？

A-----
中国です。


Q.51

これまでで最も高価で取引されたヴァイオリンは何で、いくら？

A-----
ストラディヴァリウス「レディ・プラン」ではないでしょうか。被災地への支援のため、日本音楽財団が売却し、約12.7億円という高価で取引されて話題になりました。あの楽器は特別なもので、ストラディヴァリのネックが残っていたし、セッタアップも比較的古い状態が残っていたのです。ストラディヴァリなら何でもあのような価格というわけではありません。

※ Q.43 は本誌をごらんください

Q.40

弓の毛は何で作られているのか？

弓の毛は白いが、黒馬の毛ではダメなのか？

A-----
弓の毛は馬のしっぽの毛。基本的には白い毛だが、少し茶色味を帯びているとか、黄色いとかはあります。

Q.41

馬の種類は決まっているのか？ 産地は？

A-----
産地はモンゴルが最も多い。ただ、それ以外にもヨーロッパの馬もあります。東南アジアや中国で演奏する人が増え、楽器や弓の需要が増えています。逆に原産地で馬を育てる人の数は減り、後継者が少なくなっているらしい。良い弓の毛が手に入りにくくなればよいのですけれど。

Q.42

弓の毛は脱色しているのか？ 色は？

A-----
サブライヤーは「脱色していない」と言っているケースが多いです。漂白すると質は落ちる。黒い毛は、その色なのか染色しているかどうかはわかりません。ポップス系に使われる弓で、ピンクや緑に染めたものを出している業者も出てきました。最近では、合成繊維の毛も出ましたね。弾く場所によっての変化がなく安定しているようです。

Q.44

弓の毛は何本ですか？

A-----
1本1本の毛の細さによっても変わってくるので、本数で数えるものではなく、私は嵩(かさ)で測ります。直径3.0mmの穴に束で通す。おそらく180~200本くらい。ですが、弓の特性や毛の特性によって違いはあると思います。



Q.45

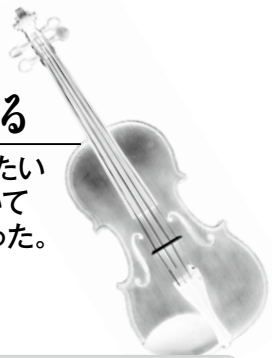
Q弓の毛=「クジラの髭説」の論拠は？

実際にクジラの髭を使った例はあるのか？

A-----
どうやらアニメの『ドラえもん』が噂のもとのようです。作品に出ていた秘密兵器の一つ、「もどりライト」で、しずかちゃんがヴァイオリンを弾いているところにライトを当てたらクジラが出てきた。実際に、伝統的にくじらの髭が使われていたのは、弓の巻き部分のストライプのところ。原作者はそれを知っていて描いたのだと思いますが。現在は、動物保護的な目的でプラスチックに代わってしまい、ほとんど見ることもなくなりました。そんなこともあって、ヴァイオリンの弓にはクジラの髭が使われている、という噂が流れたのかもしれませんがね。

2 楽器のことを知る

弦楽器について知りたい
あれやこれやについて
専門家に答えてもらった。



Q.38

弦楽器はどのようにして今の形になったのですか？
その歴史の変遷は？

A-----
ヴァイオリンは急に現れた楽器ではなく、またヴィオールから発展した楽器ではありません。ヴィオールの発展は15世紀末頃に、スペインのボルジア家が入っていく際、スペインの宮廷文化を持って行った時にイタリアで発展したものです。
ヴィオールは、リュート弾きの人がそのまま同じ運指で弾けたし、フレットがあります。ヴァイオリンとは調弦も違うし、弦の数も多いのですが、それまでにはなかった新しい楽器ということで、それが貴族社会で流行したので。
さてヴァイオリンの形をした弓奏弦楽器は、フィドル、ラバーブ(膝の上に乗せて弾く洋ナシ型の楽器)や、ジューグ(ジューガ)などの民族楽器が先祖といわれています。ケルト系の民族の人はフィドル、ほかはアラブ、アジア起源のもので、十字軍がお土産的に持ってきたり、イスラム文化がヨーロッパに伝播して展開してきたのです。
ヴァイオリン以前の楽器、リラ・ダ・ブラッチオなどはおそらくもともとは効果音的演出をしていたと考えられていますが、バロックの頃になると、器楽で声を模倣するという流れになってメロディを司るようになってきました。和音でなく独立したメロディを弾く必要が出てきたから、弦を少なくして高く上げ駒のカーヴをきつくし弓の動くところに本体のくびれができた——こうして独立した旋律を弾ける現代のヴァイオリンの形になっていったのです。
ヴァイオリンが今の形に落ち着いたのは15世紀終わり頃のように。北イタリアではブレシア派の製作者たちがこの形で製作しています。f字孔を考えた人は凄いですね。音響と共に、デザインの美しさを加えたといえるでしょう。今の形や大きさになったのは、16世紀中頃クレモナのアン Dreア・アマティの時代といえます。

Q.39

ヴァイオリンを弓で弾くようになり、今の形で演奏されるようになったのはいつごろ？

A-----
弓で演奏する西洋楽器の出現は諸説ありますがイベリア半島で13~14世紀頃にそれまであった「ヴィウエラ」という楽器がヴィウエラ・ダ・マーノ(手で弾くヴィウエラ)とヴィウエラ・ダ・アルコ(弓で弾くヴィウエラ)に分かれたのが一説です。
その後、楽器や演奏スタイルの変遷によって時代ごとに変化しますが19世紀にバガニーニがヴァイオリンに求めた楽器の仕様によって現代の演奏スタイルの基礎ができたといえます。

Q.40

弓の毛は何で作られているのか？
弓の毛は白いが、黒馬の毛ではダメなのか？

A-----
弓の毛は馬のしっぽの毛。基本的には白い毛だが、少し茶色味を帯びているとか、黄色いとかはあります。

Q.41

馬の種類は決まっているのか？ 産地は？

A-----
産地はモンゴルが最も多い。ただ、それ以外にもヨーロッパの馬もあります。東南アジアや中国で演奏する人が増え、楽器や弓の需要が増えています。逆に原産地で馬を育てる人の数は減り、後継者が少なくなっているらしい。良い弓の毛が手に入りにくくなればよいのですけれど。

Q.42

弓の毛は脱色しているのか？ 色は？

A-----
サプライヤーは「脱色していない」と言っているケースが多いです。漂白すると質は落ちる。黒い毛は、その色なのか染色しているかどうかはわかりません。ポップス系に使われる弓で、ピンクや緑に染めたものを出している業者も出てきました。最近では、合成繊維の毛も出ましたね。弾く場所によっての変化がなく安定しているようです。

Q.44

弓の毛は何本ですか？

A-----
1本1本の毛の細さによっても変わってくるので、本数で数えるものではなく、私は嵩(かさ)で測ります。直径3.0mmの穴に束で通す。おそらく180～200本くらい。ですが、弓の特性や毛の特性によって違いはあると思います。



Q.45

Q 弓の毛＝「クジラの髭説」の論拠は？
実際にクジラの髭を使った例はあるのか？

A どうかやアニメの『ドラえもん』が噂のものとようです。作品に出ていた秘密兵器の一つ、「もどりライト」で、しずかちゃんがヴァイオリンを弾いているところにライトを当てたらクジラが出てきた。実際に、伝統的にくじらの髭が使われていたのは、弓の巻き部分のストライプのところ。原作者はそれを知っていて描いたのだと思いますが。現在は、動物保護的な目的でプラスチックに代わってしまい、ほとんど見ることもなくなりました。そんなこともあって、ヴァイオリンの弓にはクジラの髭が使われている、という噂が流れたのかもしれない。

2 楽器のことを知る

弦楽器について知りたい
あれやこれやについて
専門家に答えてもらった。



Q.38 弦楽器はどのようにして今の形になったのですか？ その歴史の変遷は？

A-----
ヴァイオリンは急に現れた楽器ではなく、またヴィオールから発展した楽器ではありません。ヴィオールの発展は15世紀末頃に、スペインのボルジア家がイタリアに教皇としてローマに入っていく際、スペインの宮廷文化を持って行った時にイタリアで発展したものです。
ヴィオールは、リュート弾きの人がそのまま同じ運指で弾けたし、フレットがあります。ヴァイオリンとは調弦も違うし、弦の数も多いのですが、それまでにはなかった新しい楽器ということで、それが貴族社会で流行したのです。

さてヴァイオリンの形をした弓奏弦楽器は、フィドル、ラバーブ(膝の上に乘せて弾く洋ナシ型の楽器)や、ジグ(ジグ)などの民族楽器が先祖といわれています。ケルト系の民族の人はフィドル、ほかはアラブ、アジア起源のもので、十字軍がお土産的に持ってきたり、イスラム文化がヨーロッパに伝播して展開してき

たのです。いずれにせよ弓を使うというのは遊牧騎馬民族系の文化なので、もとはおそらくトルコとかイランなど、中央アジアの方が起源だと思います。

ヴァイオリン以前の楽器、リラ・ダ・ブラッチオなどはおそらくもともとは効果音的演出をしていたと考えられていますが、バロックの頃になると、器楽で声を模倣するという流れになってメロディを司るようになってきました。和音でなく独立したメロディを弾く必要が出てきたから、弦を少なくして高く上げ駒のカーヴをきつくし弓の動くところに本体のくびれができた——こうして独立した旋律を弾ける現代のヴァイオリンの形になっていったのです。

ヴァイオリンが今の形に落ち着いたのは15世紀終わり頃のようなのです。北イタリアではブレシア派の製作者たちがこの形で製作しています。f字孔を考えた人は凄いですね。音響と共に、デザイン的な美しさを加えたといえるでしょう。今の形や大きさになったのは、16世紀中頃クレモナのアン Dreア・アマティの時代といえます。

Q.39 ヴァイオリンを弓で弾くようになり、今の形で演奏されるようになったのはいつごろ？

A-----
弓で演奏する西洋楽器の出現は諸説ありますがイベリア半島で13～14世紀頃にそれまであった「ヴィウエラ」という楽器がヴィウエラ・ダ・マーノ(手で弾くヴィウエラ)とヴィウエラ・ダ・アルコ(弓で弾くヴィウエラ)に分かれたのが一説です。
その後、楽器や演奏スタイルの変遷によって時代ごとに変化しますが19世紀にパガニーニがヴァイオリンに求めた楽器の仕様によって現代の演奏スタイルの基礎ができたといえます。

Q.48

弦の素材は何で、どうやって作るんですか？

A

伝統的にはガット（羊の腸）を使ってきました。ガットを芯に金属の細い線を巻いて作ります。現在でもガット弦は愛用されていますが、芯に化学繊維、スチールを使ったものが多く普及しています。

Q.49

ヴァイオリン(弦楽器)の材料は何ですか？

A

基本的には木。響板に使う表板は、「スプルース」と呼ばれる針葉樹を使う場合がほとんどです。裏板などは、例えばヴァイオリンの場合、メイプル材＝カエデの木を使うのが、現代では一般的になっています。

杉や他の針葉樹で作ろうとした人もいますが、実際にはうまくいかなかった。木の音響特性的なものでしょうが、ヨーロッパのスプルースが使われています。アメリカ合衆国では違う種類のスプルースを使っている例もあり、その方が音響特性が良いという製作者もいます。軽くてしなやか、というのが必要とされる特徴です。

Q.46

左利き用の弦楽器はありますか？

A

あります。ただ、日本では矯正教育が通常のように、左利きで演奏している人を見たことはありません。以前に、メルボルンのオケでオーケストラに2人、左利きの人がブルトを組んで並んでおり、演奏していたという話を聞いたことがあります。

通常、作っているところは無いのですが、左右逆にした楽器は作れるので、必要なら楽器製作者に相談してみてください。

Q.47

ギターではオリジナルモデルで遊んでいる人がいますが、変わった形のヴァイオリンやヴィオラがあるのでしょうか？

A

ヴァイオリンやチェロは特殊な形のものがあります。シャノー型＝コーナーが無いものが知られていますね。ヴィオラは、ヴィオラダモーレに近い形のものでアメリカ在住の日本人製作者が作っている特殊な形の窪みがあるヴィオラを愛奏している演奏家もいます。肩のところがくぼんでいて、ハイポジションが取りやすくなっているヴィオラもあります。

実際は、製作者や注文主のニーズや遊び心で作るものが多いです。ヴァイオリンについても、ポップス系の人に受け入れられやすいようです。

それとは別に、必要に応じた五弦楽器も見かけます。これはヴァイオリンに下のC弦を足すものと、ヴィオラにE弦を足すものでは考え方がまったく異なります。五弦は演奏も難しいので、弾ける人は限られてくるのではないかと思います。

Q.50

Q ベグ(糸巻)が回らなくなったらどうすればいい？

A ベグが回らなくなる大きな理由は二つあります。一つは、歪んだり変形はしていないが、固くなっている場合。もう一つは、木の変形、つまりベグホールやベグが変形してしまっ

て、回りづらくなっているケースです。穴とベグが合っている場合は、乾燥している時期から湿っていく時期に木が膨らんで、摩擦がきつくなって動かないケース。逆に湿度の高いシーズンから低い季節になると、緩んで弦がべろんとなってしまう。この場合は、「ベグソープ」を使って、ベグをもう一度入れ直してあげれば解決する。「ベグソープ」は、クレヨンのように見えるが柔らかい素材のもので、市販されています。適度な摩擦を作ってあげることができ使いやす

いので常備しておくといでしょう。ただこれが原因のものは2割くらいです。むしろ多いのは、木が変形してきているケース。時間が経てば、ベグの軸が変形したり楕円になったりすることがある。楽器のベグボックスも変形することがあります。この場合は、穴を修正したり開け直します。

もともと穴の配置が悪く弦に他の弦が干渉するケースもあります。その場合は、それを変えるだけでも音が伸びるようになりますし、チューニングがしやすくなります。まずは木で穴を埋め、もう一度開ける作業です。上手くやれば跡もほとんどわからない。ベグの配置は紙一枚くらいの微妙な位置関係なので、正しく設定することが肝心です。調弦が楽にできるかどうかは上達にも大きな影響がありますので、是非一度、チェックした方がい

今さら聞けない
弦楽器

Q&A100



Q.53

ヴァイオリン人口が一番多い国は？

A

実際に数字が出ないのでわかりませんが、貿易統計からすればアメリカ合衆国。第2位は相変わらず日本です。ただし、中国が国内需要で回っていると考え

ると、人口の割合からすれば中国かもしれません。貿易統計には上がってこないですから。アジア系の人の演奏人口が増えていることは確かなのです。

Q.52

弦楽器(中でもヴァイオリン)が一番多く作られている国は？

A

中国です。



Q.51

これまでで最も高価で取引されたヴァイオリンは何で、いくら？

A

ストラディヴァリウス「レディ・ブラン」ではないでしょうか。被災地への支援のため、日本音楽財団が売却し、約12.7億円という高価で取引されて話題になりました。あの楽器は特別なもので、ストラディヴァリのネックが残っていたし、セットアップも比較的古い状態が残っていたのです。ストラディヴァリなら何でもあのような価格というわけではありません。

※ Q.43 は本誌をごらんください



この項目の回答者

篠崎 渡(しのざき・わたる)

ミラノ市立弦楽器製作学校で弓奏弦楽器製作、修復コースのディプロマを取得。ミラノのイウス工房、モデナのフリニャーニ工房で研鑽を積み 2010 年より埼玉県比企郡にて篠崎バイオリン工房を営む。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの製作以外に音楽史、楽器史の研究、楽器製作用材木や製作マテリアルの販売を行っている。